

3 男女共同参画に関する県民の意識

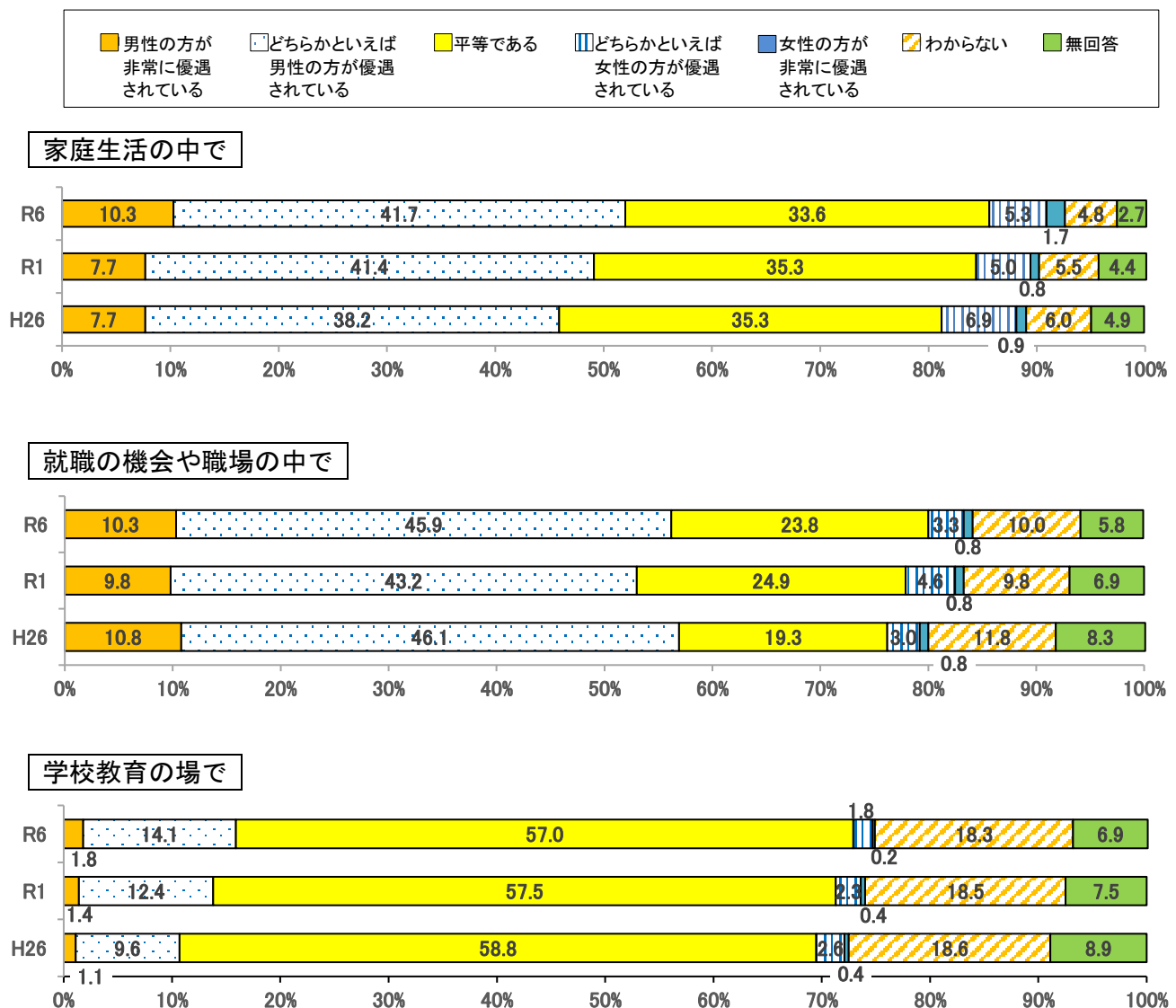
(山口県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和6年度)結果)

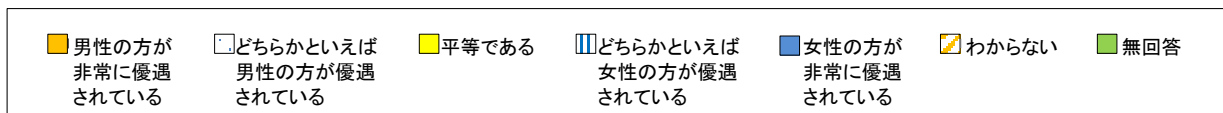
① 男女の地位の平等感について

「平等である」と回答した人の割合は、令和元年度調査と比較して、各分野において微増減はあるものの、概ね横這いで推移しており、「政治活動の中で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「社会全体として」の項目では、依然として、6割以上が「男性の方が優遇されている」と回答しています。

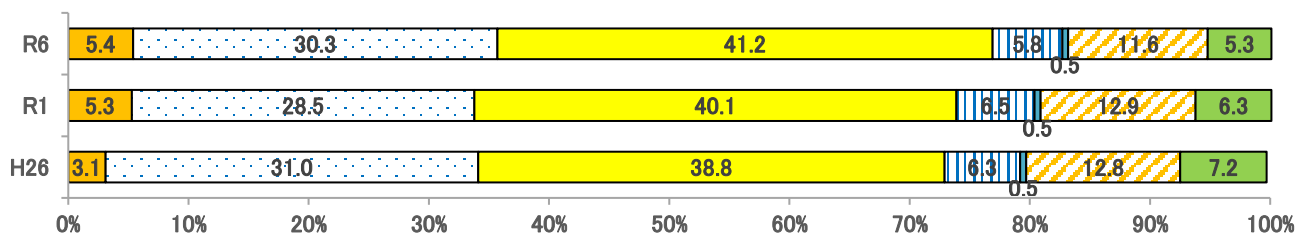
各分野において、「男性の方が優遇されている」と答えた割合は男性より女性の方が高く、「平等」と答えた割合は女性より男性の方が高く回答しています。

男女の地位の平等感について

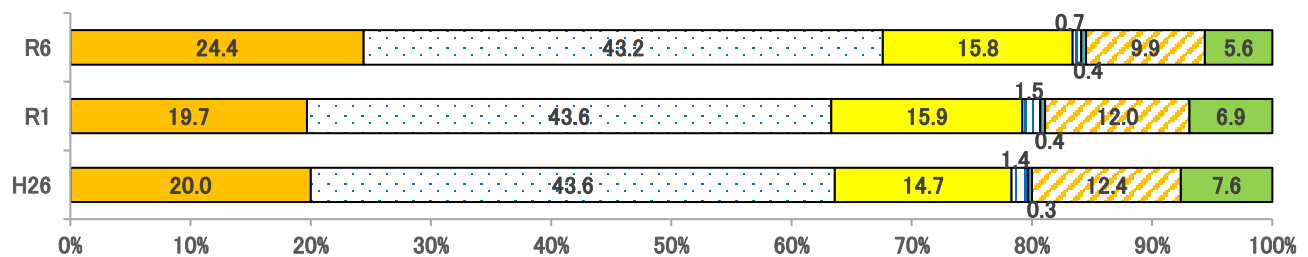




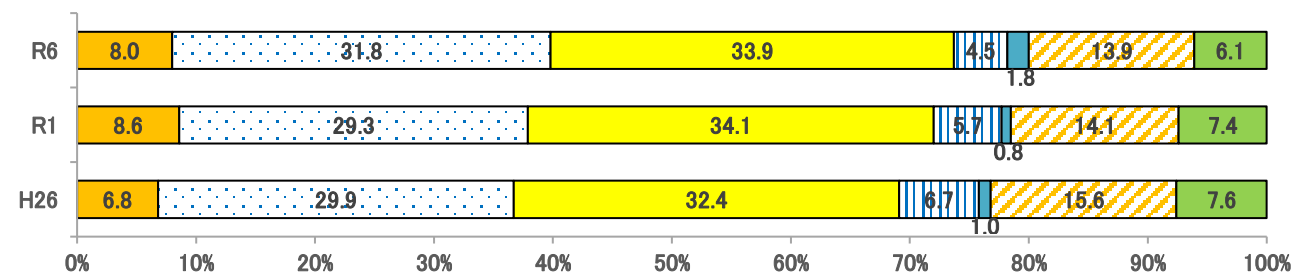
地域活動の中で



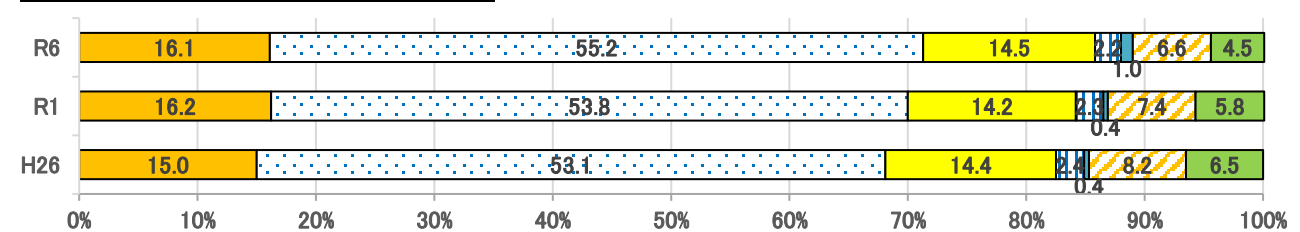
政治活動の中で



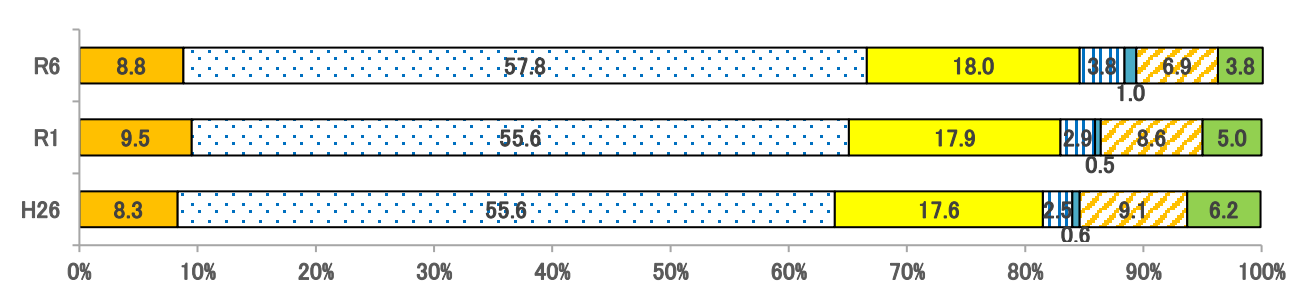
法律や制度の面で



社会通念・慣習・しきたりなどで



社会全体として

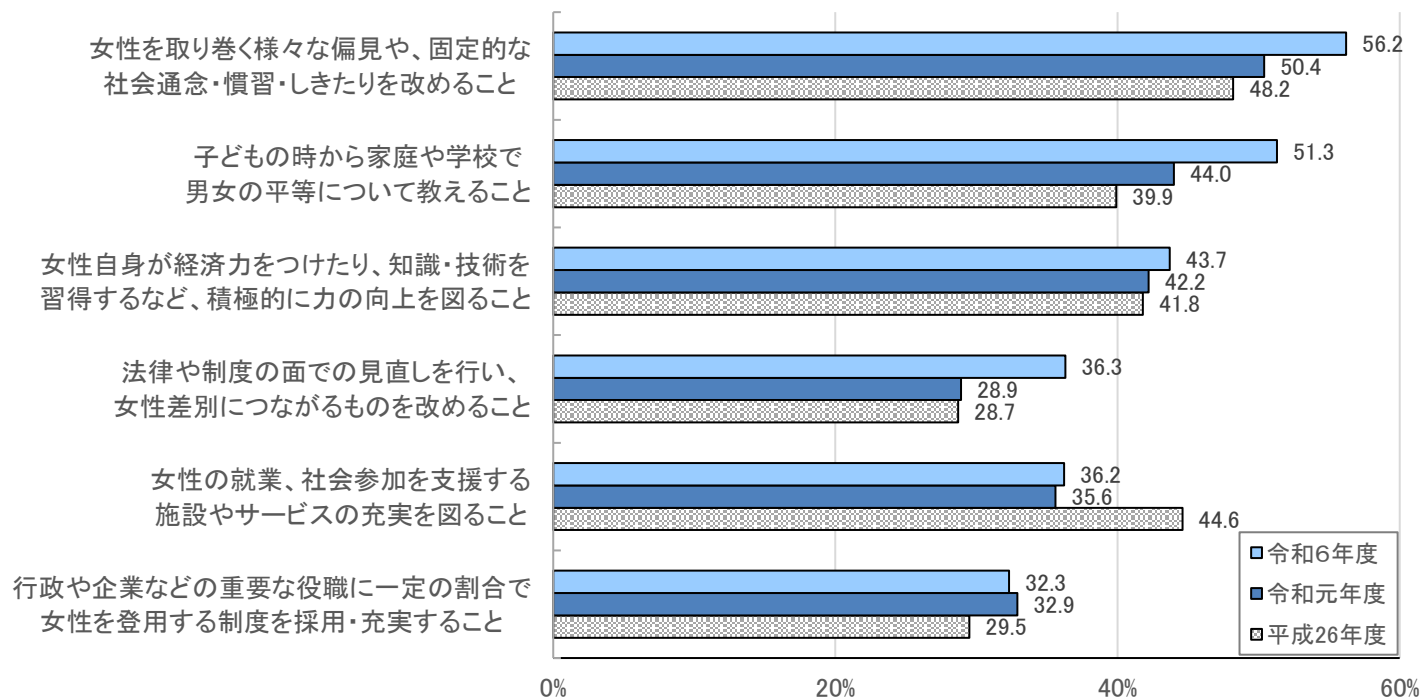


② 男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと

「女性を取り巻く様々な偏見や、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が、平成 21、26、令和元年度調査に引き続き最も高くなっています。

次に「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教えること」、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」となっています。

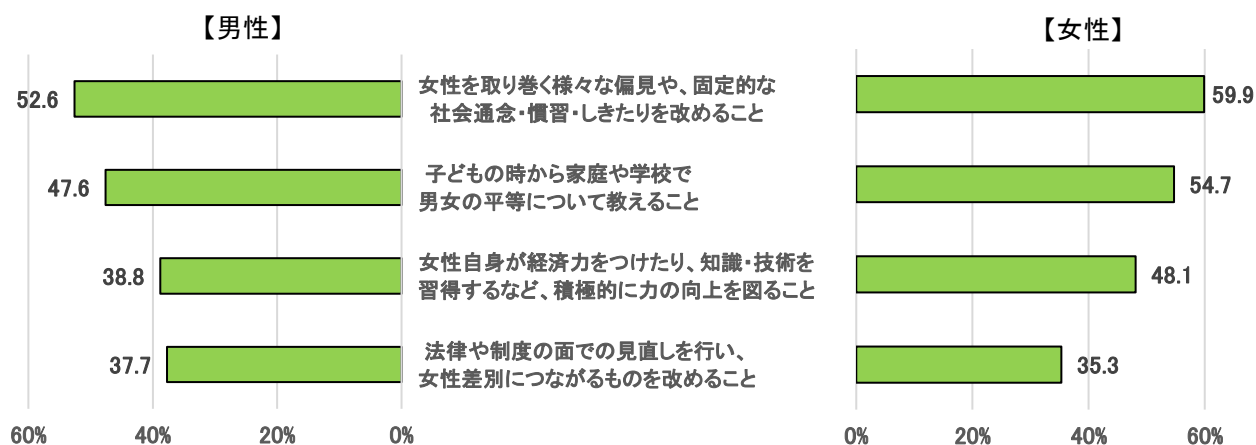
男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと



男女別は下図のとおりで、男女とも、「女性を取り巻く様々な偏見や、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が最も高くなっています。

また、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」では、女性が男性を9.3ポイント上回っています。

男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと（令和6年度：男女別：上位4項目）

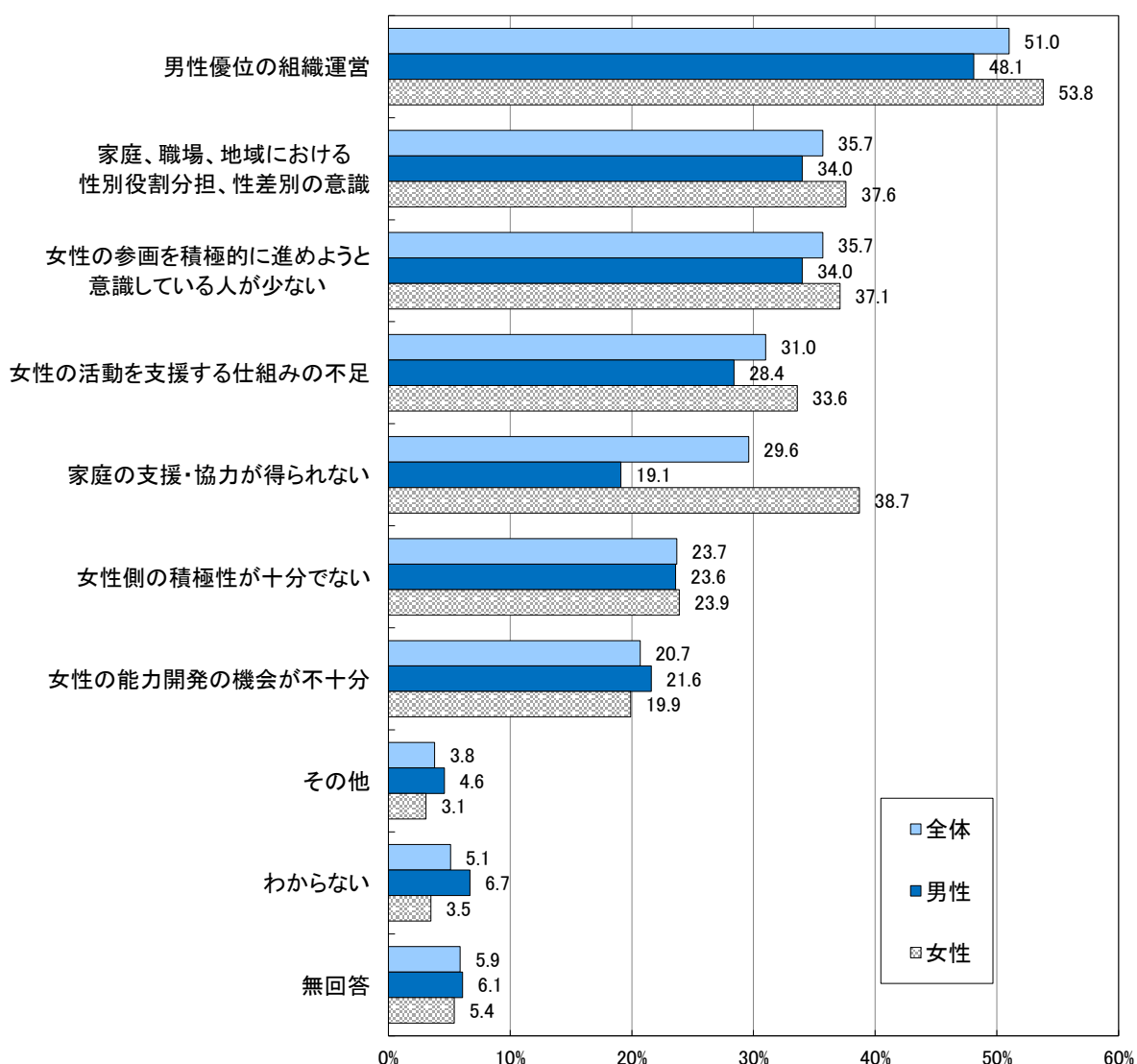


③ 女性の活躍について

社会の中で意思決定の場に女性の参画が少ない理由は、「男性優位の組織運営」が最も高く、以下、「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」の順となっています。

男女別にみると、「家族の支援・協力が得られない」、「女性の活躍を支援する仕組みの不足」については、女性で高くなっています。

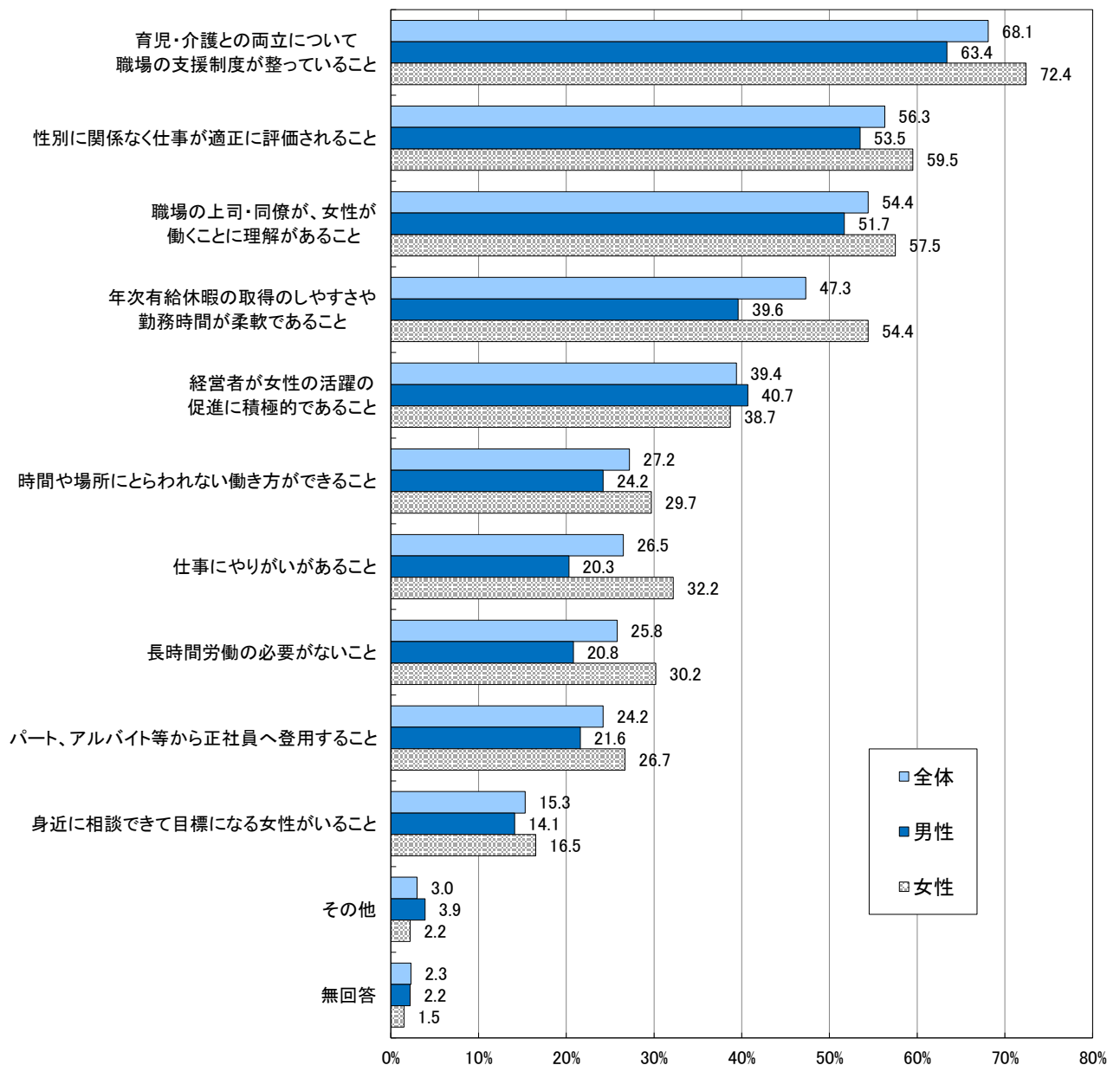
社会の中で意思決定の場に女性の参画が少ない理由



女性が活躍できる仕事・職場環境に必要なことは、「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」が最も高く、以下、「性別に関係なく仕事が適正に評価されること」、「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」の順となっています。

男女別にみると、「年次有給休暇の取得のしやすさや勤務時間が柔軟であること」、「仕事にやりがいがあること」については、女性で高くなっています。

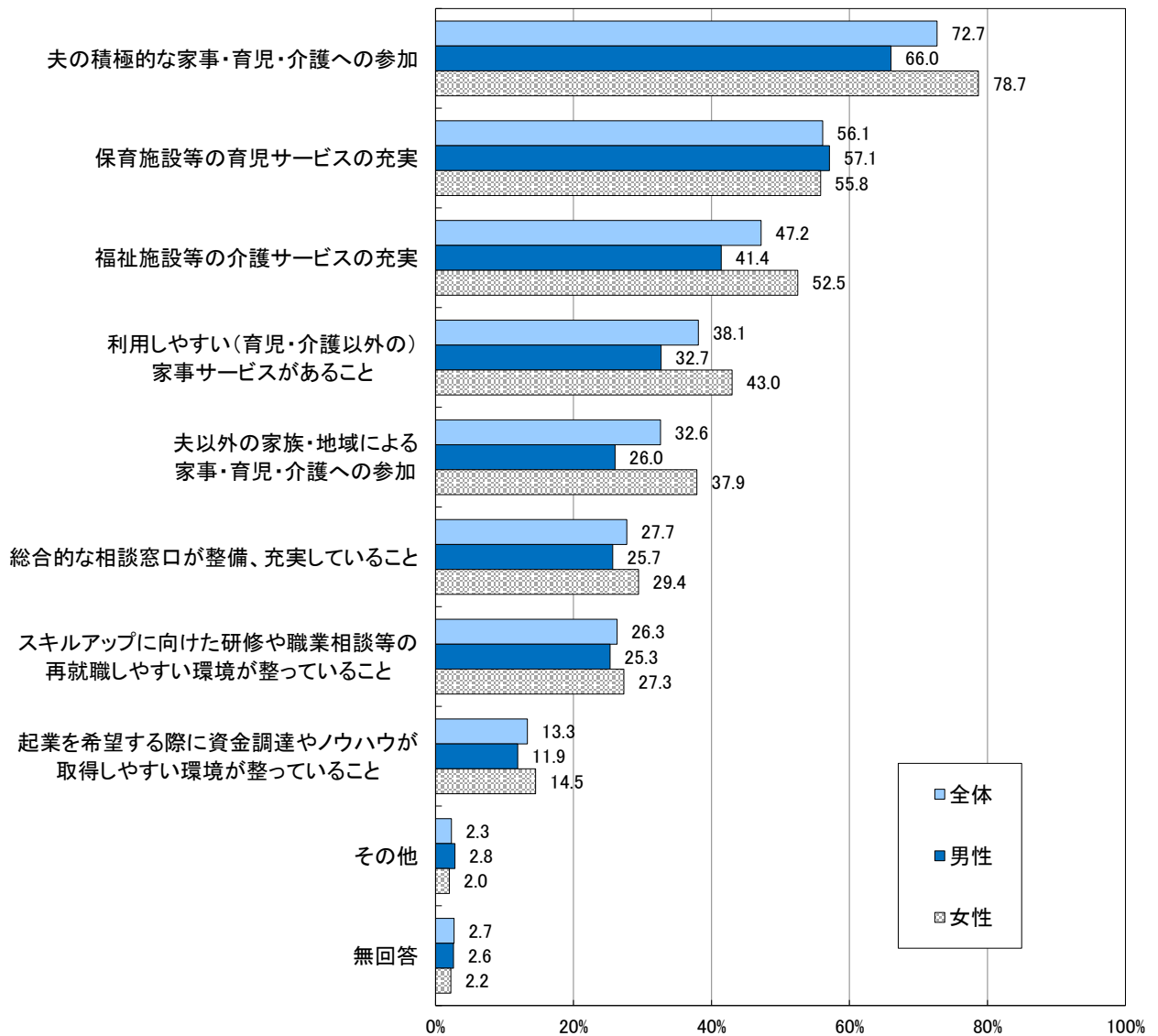
女性が活躍できる仕事・職場環境に必要なこと



女性の活躍が進むために家族・社会等で必要なことは、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」が最も高く、以下、「保育施設等の育児サービスの充実」、「福祉施設等の介護サービスの充実」の順となっています。

男女別にみると、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」、「福祉施設等の介護サービスの充実」、「夫以外の家族・地域による家事・育児・介護への参加」については、女性で高くなっています。

女性の活躍が進むために家族・社会等で必要なこと

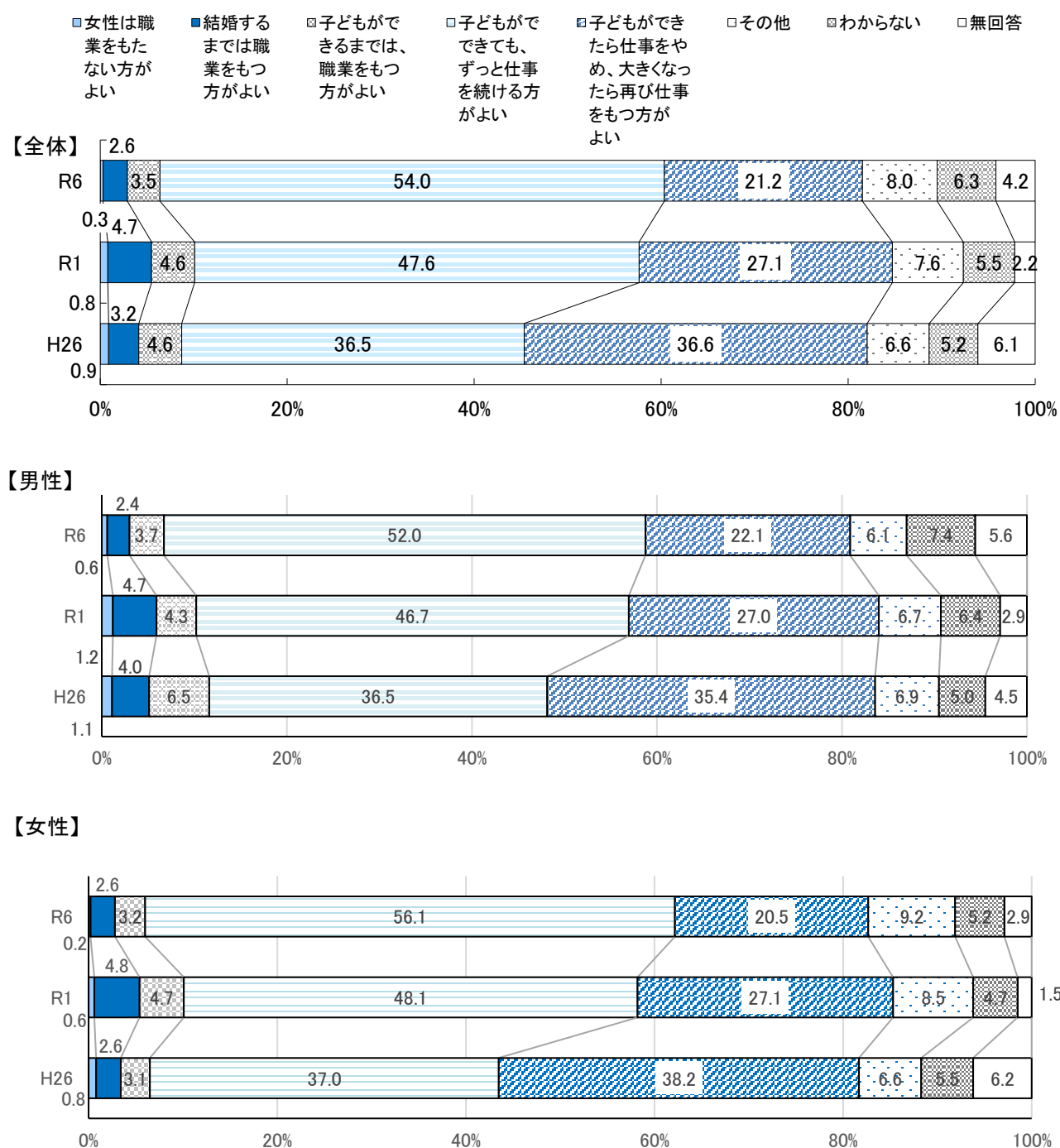


④ 女性が職業をもつことについて

女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」とする人は、前回（R1）の調査から6.4ポイント上昇し、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」とする人は、5.9ポイント低下しています。

また、男女とも同様の傾向がみられ、女性の継続就業を肯定的にとらえる回答が増加しています。

女性が職業をもつことについて



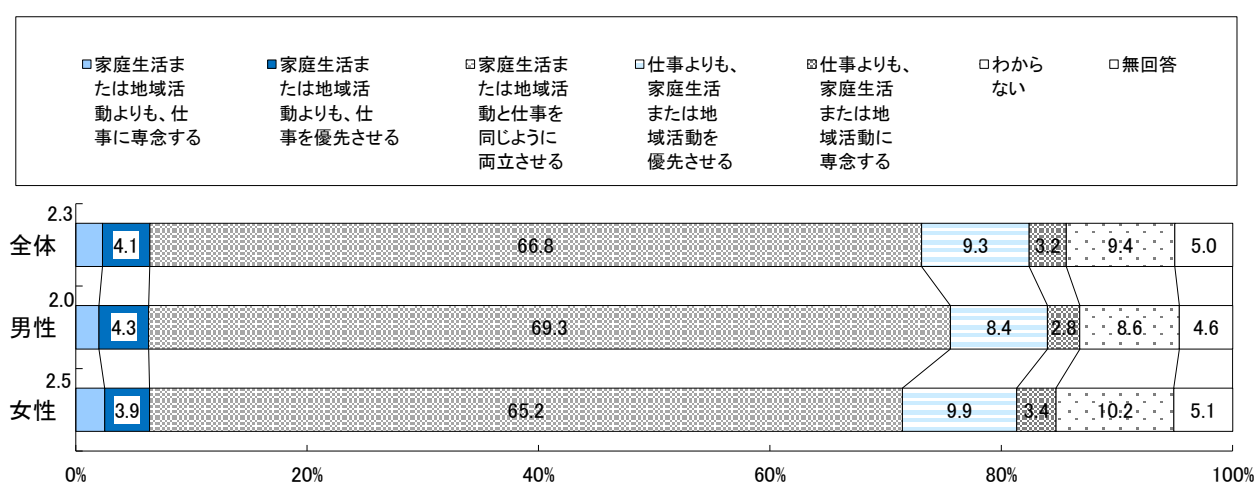
⑤ 仕事と、家庭生活または地域活動とのバランスについて

仕事と家庭生活または自治会やボランティアなどの地域活動とのバランスについて、「理想」に最も近いものを聞いたところ、男女とも「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の回答が半数を超え、最も多くなっています。

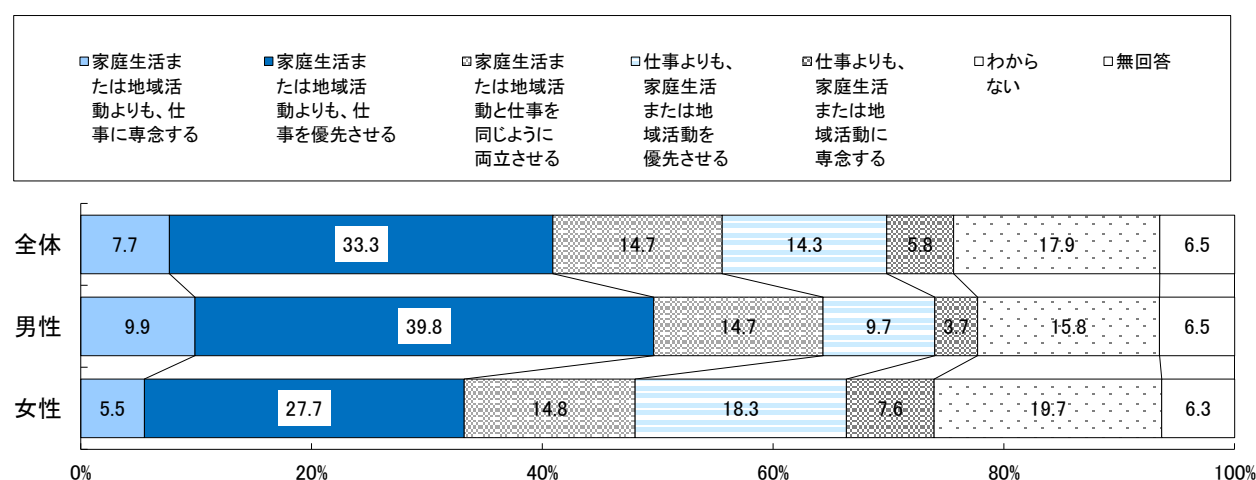
一方、「現実」については、男女とも「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の回答は1割強と、理想と現実で大きく乖離しています。

男女別にみると、男性では仕事、女性では家庭生活や地域活動を優先する割合が高くなっています。

仕事と、家庭生活または地域活動とのバランス（理想）



仕事と、家庭生活または地域活動とのバランス（現実）

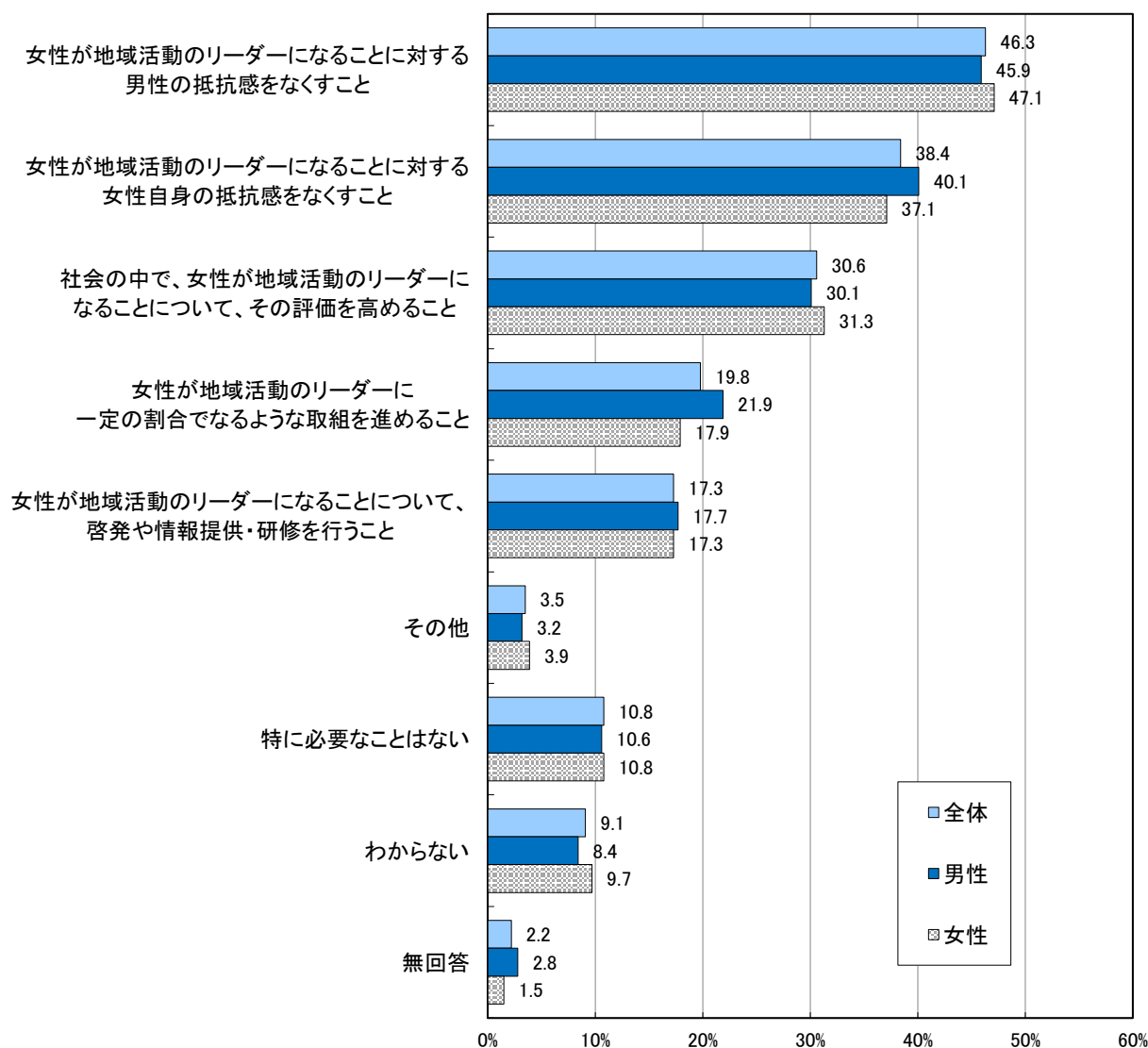


⑥ 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高く、以下、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」の順となっています。

男女別にみると「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」については、男性で高くなっています。

女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと



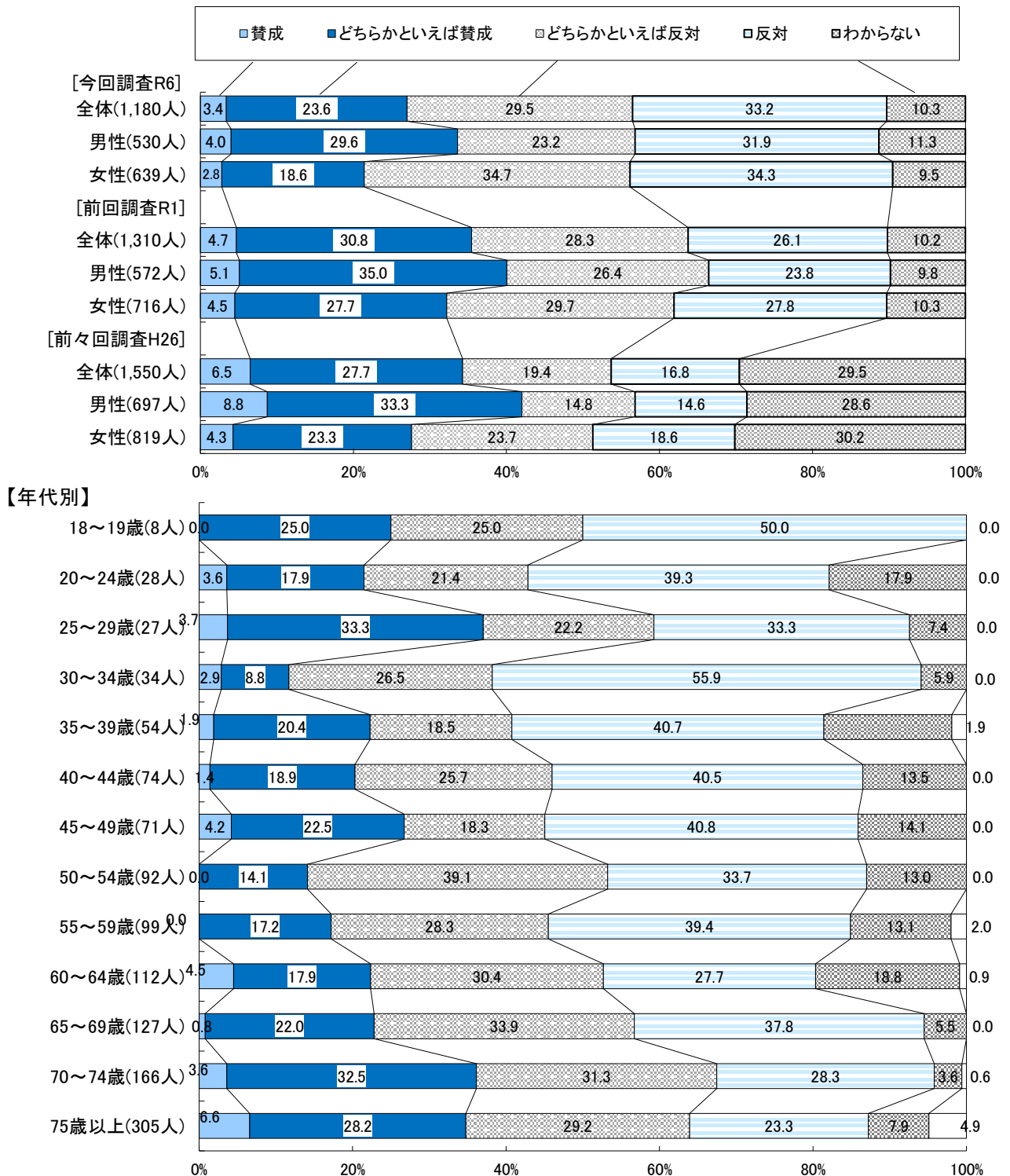
⑦ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「賛成」が27.0%、「反対」が62.7%となり、反対が賛成を35.7ポイント上回っており、男女ともに、「反対」が「賛成」を上回っています。

男女別にみると、「賛成」は男性が女性を12.2ポイント、「反対」は女性が男性を13.9ポイント上回っており、意識の差がみられます。

また、前回(R1)の調査結果と比較してみると、「賛成」が8.5ポイント低下し、「反対」が8.3ポイント上昇しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

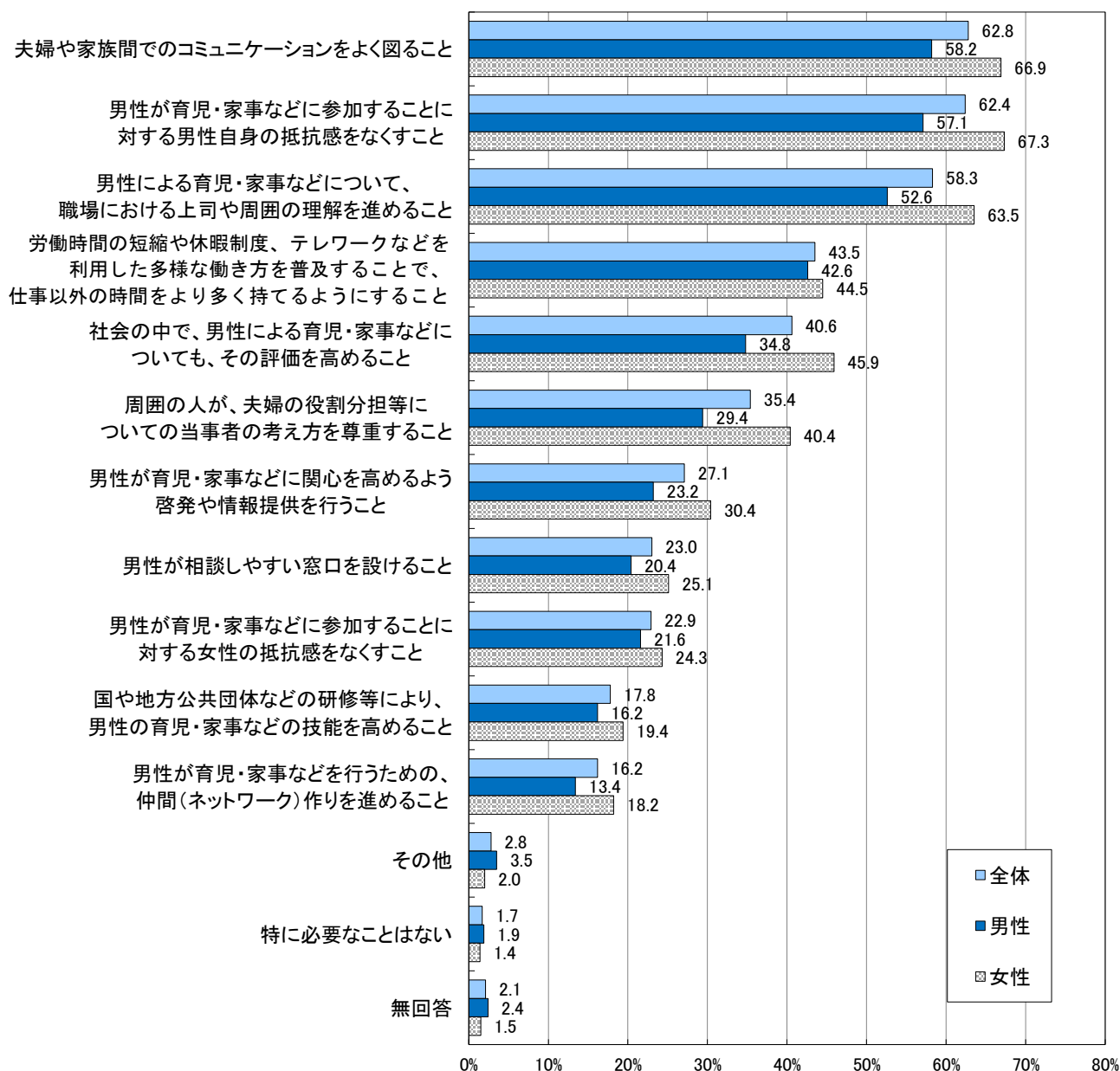


⑧ 男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高く、以下、「男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の順となっています。

男女別にみると「男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」については、女性で高くなっています。

男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

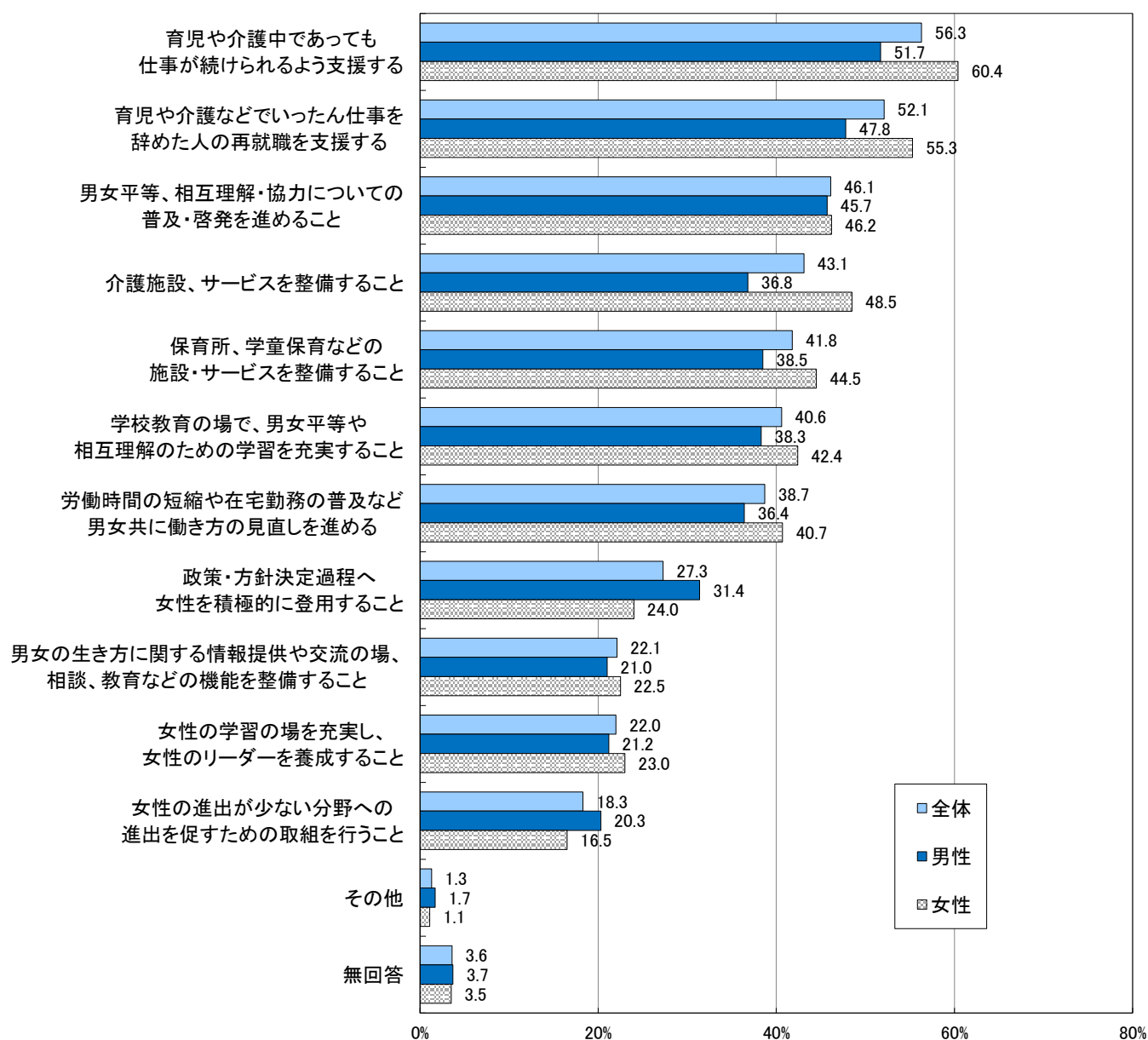


⑨ 男女共同参画社会の形成に当たっての行政に対する要望

「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も高く、以下、「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「男女平等、相互理解・協力についての普及・啓発を進めること」の順となっています。

男女別にみると、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」、「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「介護施設、サービスを整備すること」については、女性で高くなっています。

男女共同参画社会の形成に当たっての行政（県・市町）に対する要望



4 男女間の暴力等に関する県民の認識等

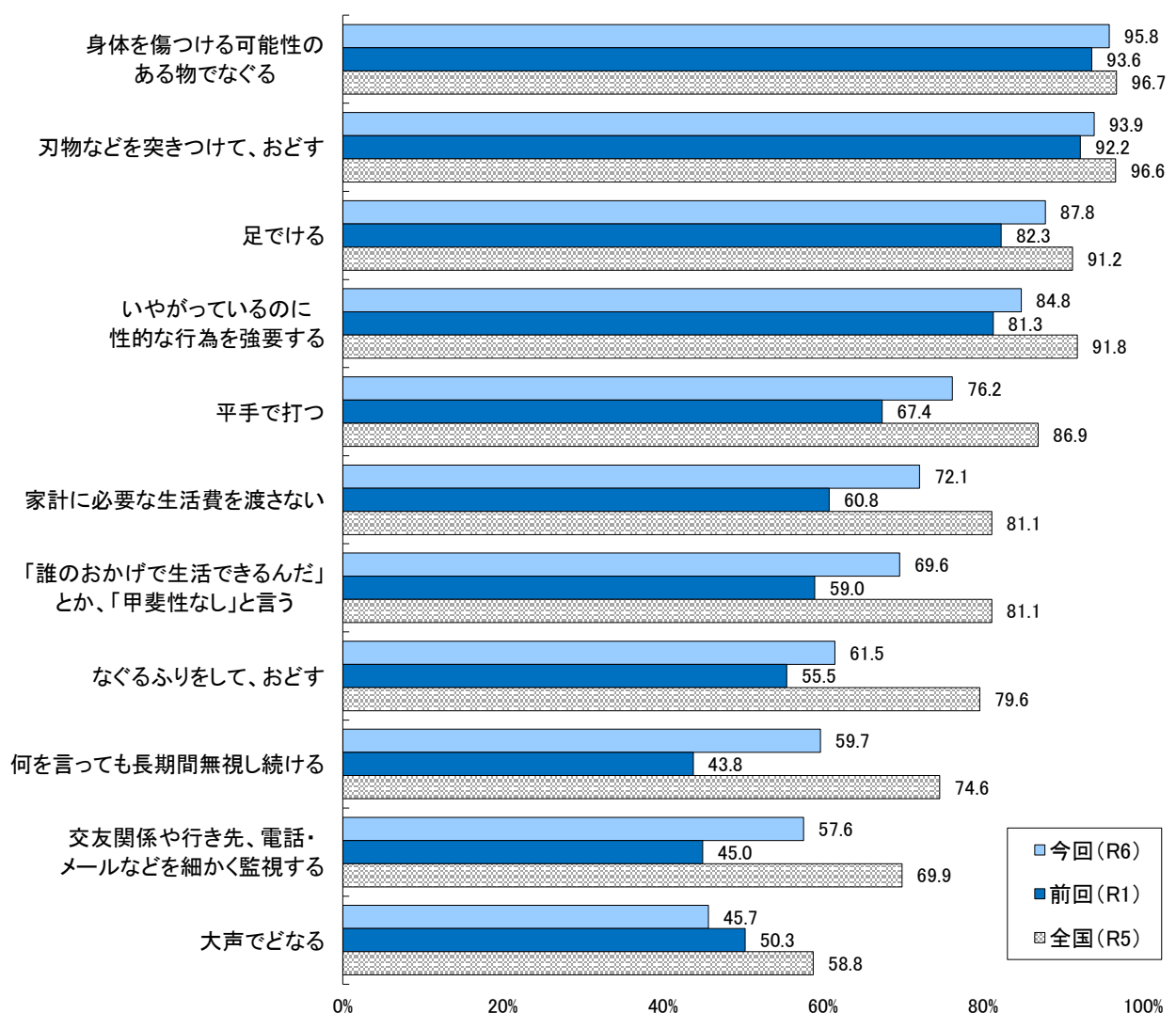
(山口県「男女間における暴力等に関する調査」(令和6年度)結果)

① 配偶者からの暴力と認識される行為

「いやがっているのに性的行為を強要する」、「なぐるふりをして、おどす」などといった身体的暴力でない行為も含め、すべての行為において、暴力にあたるとの認識は、前回(R1)の調査より上昇しています。

また、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」、「何を言っても長期間無視し続ける」といった精神的暴力については、全国と比べて暴力にあたるとの認識が低くなっています。

配偶者からの暴力と認識される行為



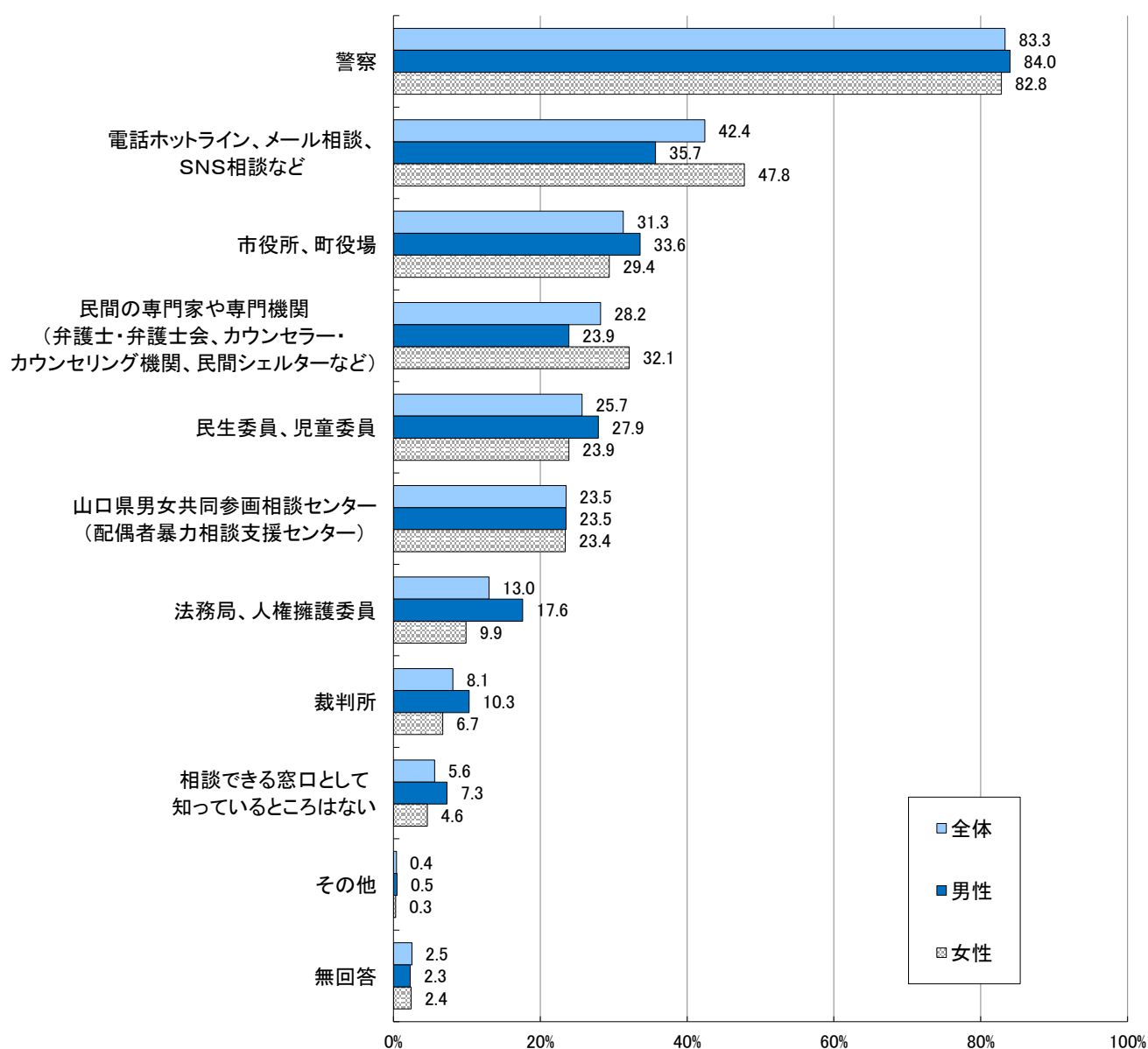
全国は、内閣府「男女間における暴力に関する調査」(令和5年9月調査)より

② 配偶者からの暴力についての相談窓口の認知度

相談窓口として知っているものは、「警察」が最も高く、次いで「電話ホットライン、メール相談、SNS相談など」、「市役所、町役場」、「民間の専門家や専門機関」、「民生委員、児童委員」、「山口県男女共同参画相談センター」の順となっています。

山口県男女共同参画相談センターの認知度は23.5%ですが、「相談できる窓口として知っているところはない」と回答した人は5.6%となっています。

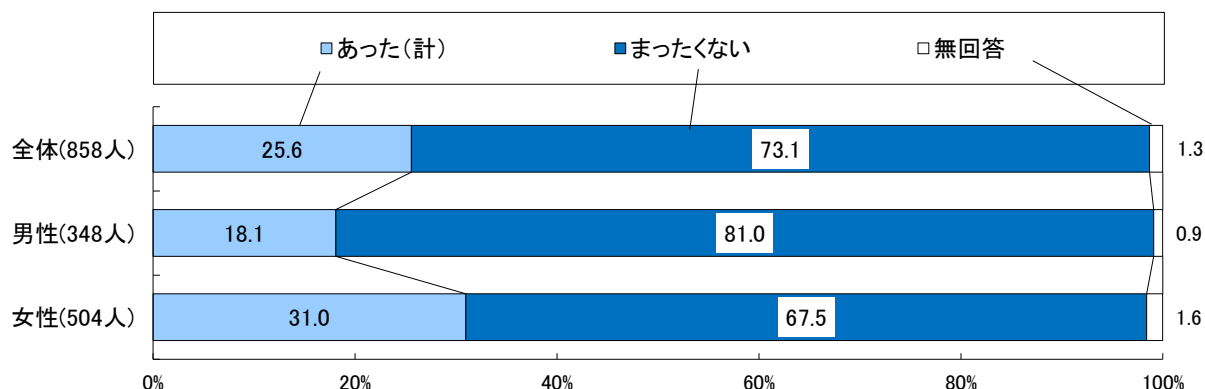
配偶者からの暴力についての相談窓口の認知度



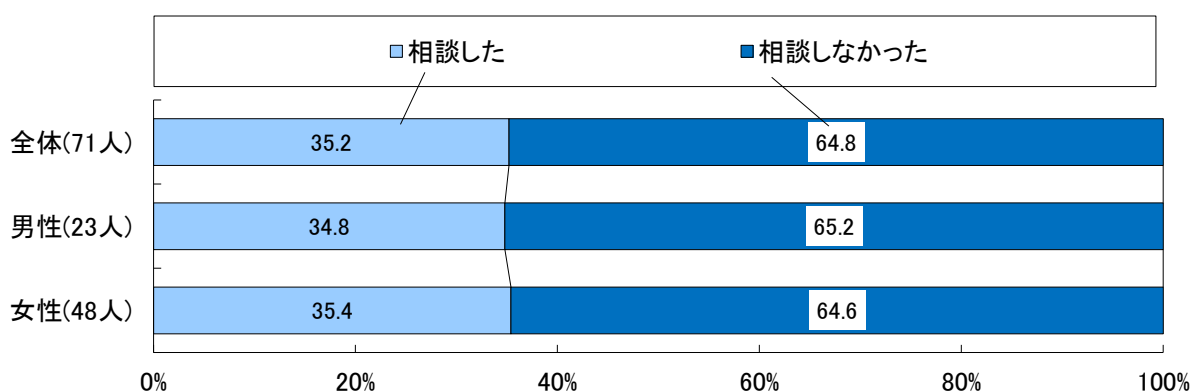
③ 配偶者からの暴力の被害経験の有無と相談の有無

約4人に1人が配偶者からの暴力の被害経験があり、その被害について、約6割がどこ(だれ)にも相談していません。

配偶者からの暴力の被害経験の有無



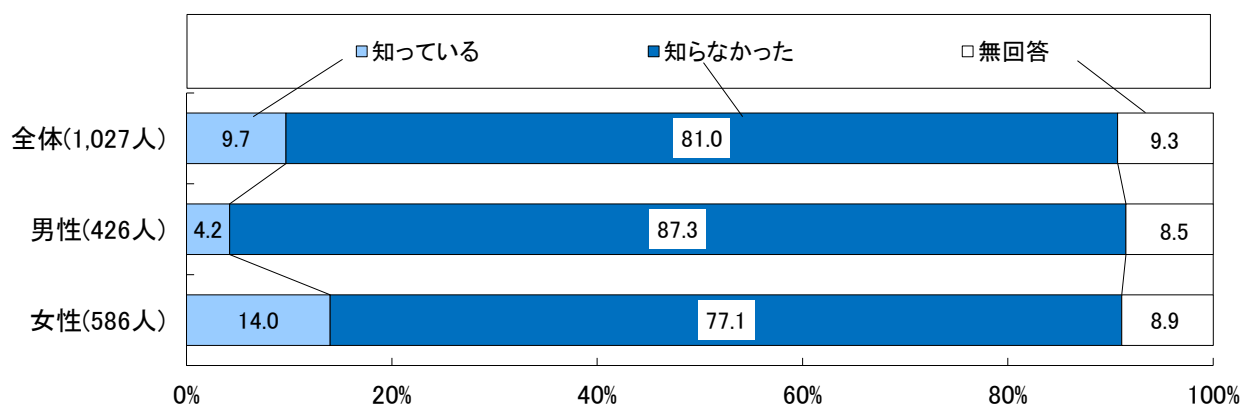
うち5年以内に被害経験があった方の相談の有無



④ やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の認知度

「知っている」と回答した人は、9.7%、性・年齢別では、女性は50歳代までの約1割が「知っている」と回答しています。

「あさがお」の認知度

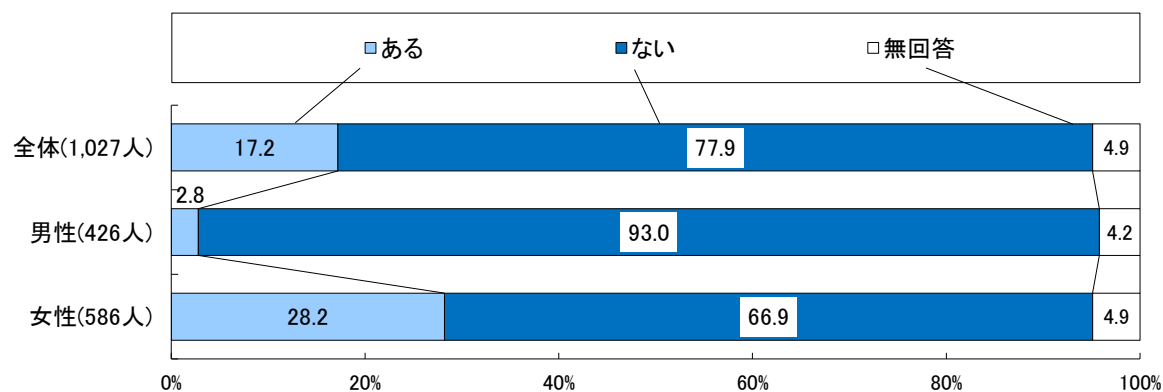


⑤ 性暴力の被害経験の有無と被害の相談の有無

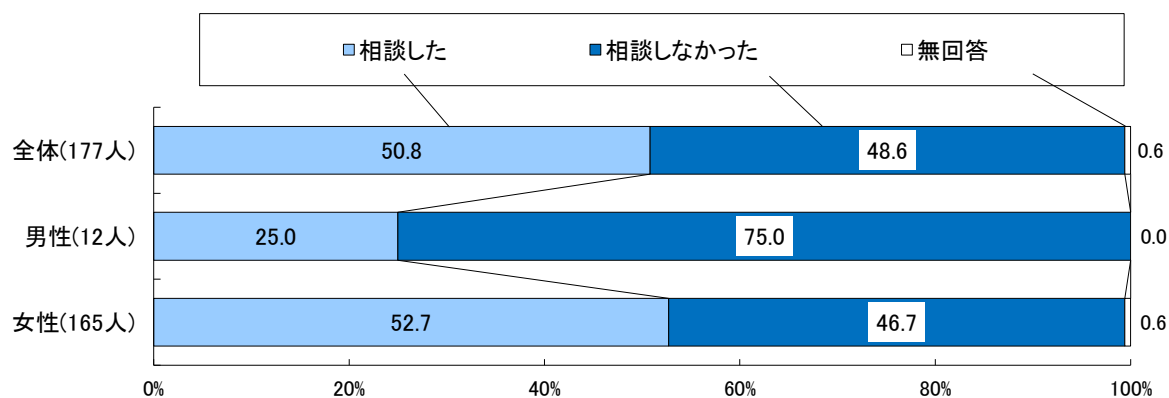
女性の約3人に1人は性暴力の被害経験があり、その被害について、約5割がどこ(だれ)にも相談していません。

※性暴力：性交、身体を触られる、痴漢、盗撮などの同意のない・望まない性的な行為

性暴力の被害経験の有無



性暴力被害の相談の有無



【調査の出典】

「男女共同参画に関する県民意識調査」（令和6年度調査）

1 趣 旨

男女共同参画の施策推進の基礎資料とするため、男女共同参画に関する県民意識を総合的に把握するもの。

2 調査概要

対 象：山口県内居住の18歳以上の男女各1,500人 計3,000人

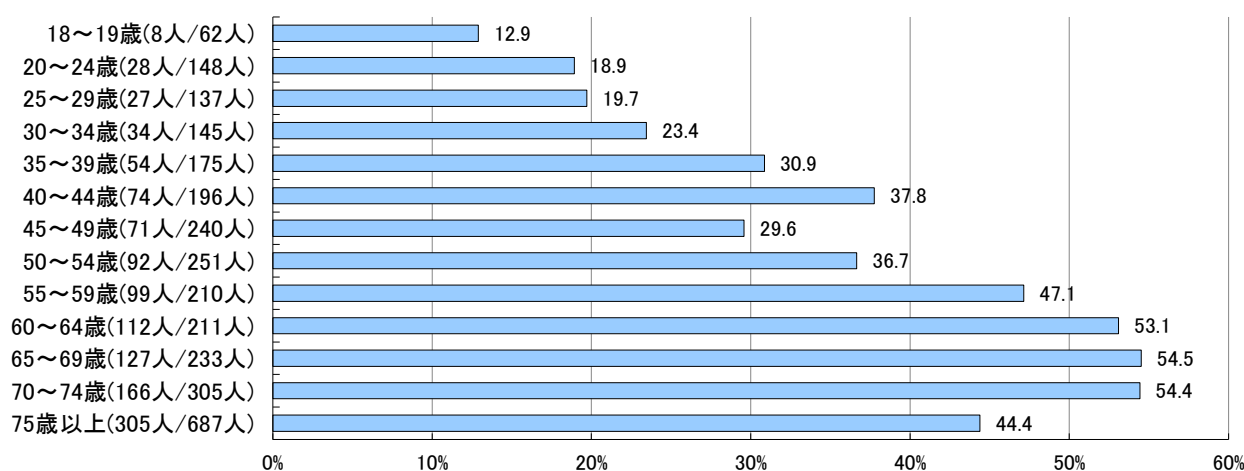
抽 出 方 法：住民基本台帳に基づく無作為抽出（市町別、年齢別人口比による割当）

調 査 方 法：郵送調査

調 査 期 間：令和6年9月26日～令和6年10月18日

回収数(率)：全体1,200(40.0%)、男性538(35.9%)、女性649(43.3%)、不明13

3 年齢別の回収率



「男女間における暴力に関する調査」（令和6年度調査）

1 趣 旨

配偶者暴力対策等の施策推進の基礎資料とするため、男女間の暴力に関する県民の認識、被害の経験の態様、程度及び潜在化の程度、理由を総合的に把握するもの。

2 調査概要

対 象：山口県内居住の18歳以上の男女各1,500人 計3,000人

抽 出 方 法：住民基本台帳に基づく無作為抽出（市町別、年齢別人口比による割当）

調 査 方 法：郵送調査

調 査 期 間：令和6年9月26日～令和6年10月18日

回収数(率)：全体1,027(34.2%)、男性426(28.4%)、女性586(39.1%)、不明15

3 年齢別の回収率

